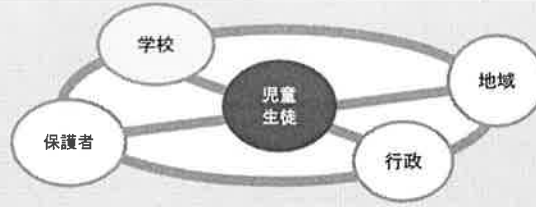


学校業務改善 推進だより 第4号

令和元年12月25日発行
浦添市立学校業務改善推進委員会



教職員の業務改善に対する意識改革 と 行政のかかわり方

12月3日(火)に行われた学校業務改善推進委員会では、下記の学校業務改善案⑨～⑫について協議されました。その協議内容の概要と改善策の方向性をご確認ください。協議は、事前に各学校の業務改善校内委員会で話し合われ提出していただいた「現状・課題」、「改善策」、「改善策を実践する際に学校や家庭等が調整・対応する事項」を踏まえ、教師の負担軽減が可能な業務が、基本的には学校以外が担うべき業務か、必ずしも教師が担う必要のない業務かなどの視点をもって行われました。

先生方、保護者の皆様、地域の皆様、下記の改善案⑨～⑫についてのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学校業務改善案⑨ 業務環境の改善 各学校における会議の効率化の推進

職員会議は開始・終了時刻が概ね守られているようですが、その他の学年会等の会議では、開始・終了時刻はあまり守られていないようです。事前に先生方は会議内容を目を通していただくでしょうか。そうしないといけないとわかっていてもそうできていないことが多いのではないのでしょうか。もちろん、日常の学習指導や生徒指導、保護者との連携等でなかなか時間が確保できないこともその理由になるかと思いますが、会議の効率化の鉄則は、事前の会議資料の配布、会議参加者の事前の資料内容の確認、そして、協議する事項を焦点化することが重要なです。つまり、会議参加者の会議への参画意識が大切ですが、提案者の事前の準備もとても重要になります。例えば、昨年度の課題をしっかりと踏まえ、その課題改善のために改善策として今年度の取り組みを提案していく必要があります。その取組等のねらいをめざした改善策に焦点をあてて協議していくことが時間内で会議を終えることにつながると思います。また会議内容によって参加する人を決めたり、極端な例えになりますが立ちながらの会議をしたりすることも、時間をかけずに進めていける工夫の一つだと考えます。その他、職朝を終りにすることや会議のペーパーレスも検討事項としてあげられました。

学校業務改善案⑩ 業務環境の改善 学校事務の共同実施の推進

学校事務の共同実施とは学校間の事務の標準化、資質向上めざし、日常は各学校で勤務している学校事務職員が週1回程度、一つの学校に集まる等して、複数の学校の事務業務を共同で行うものです。事務職員の経験が豊富なベテランの方、経験がまだ浅い方の業務への取組が平準化できるので良い制度だと思います。現状として、事務職員の業務は審査業務、処理業務、個人情報の取り扱い等と多岐にわたっており、事務職員と教職員が連携して、事務処理を円滑にできる組織体制を構築していく必要があります。そのため、業務内容の共通理解を図ったり、業務のミスを起こさないようにするために、他校事務職員との日常からの連携・確認が必要となります。しかし、共同実施のメンバーが中学校区の事務職員で編成されていないため、メンバー編成の改善が必要です。また学校によっては、毎週一回、管理職と県費事務職員、市費事務職員等が参画する連絡会を実施して業務改善を図っている状況もあるようです。短時間の設定になると思いますが、今週から次週にかけての業務内容の情報共有により、よりスムーズな事務業務・処理につながります。このように、学校経営に事務職員が教職員と同じ立ち位置で参画していくことを目指す必要があると思いますし、事務職員は学校経営の裏方ではなく、事務職員は間接的に子ども達に向き合っていると同時に、教職員の働きやすい環境を作っています。そのおかげで、教職員は直接的に子ども達に向き合うことができているのです。学校業務改善は教職員だけではなく事務職員のことも同様と考えていく必要があります。その他、学校事務作業の見直しや事務長の負担軽減、事務職員のパソコンの入れ替えについても検討していく必要があります。

学校業務改善案⑪ 教職員の負担軽減につながる取組 ボランティア活動の推進

学校ボランティア活動の現状としては、地域での子どもたちの安全面における見守りを継続的に行っている方、学校での読み聞かせなどで協力している方々があります。また授業に係る地域の人材活用、あるいは大学生の人材活用をどの学校でも進めています。この活動は、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保することができ、教育活動の充実につながりますし、結果的に教職員の負担軽減につながります。しかし、学校ボランティア活動にかかわってくださる地域の方は継続的に依頼できますが、大学生ボランティアについては継続して活用できるか確約できないという状況となっています。このような様々な学校ボランティアがありますが、現在学校現場で最も必要とされている学校ボランティアは、授業中における学習ボランティアです。先生方は授業において一斉指導と個別指導をバランスよく行っていますが、なかなか学習に集中できなかったり、理解に時間がかかったりする子がいるため、授業づくりに苦慮しています。毎時間ではなくても現在浦添市で任用している担任の補佐的役割で学習に集中させたり、繰り返し問題を読み返してあげたりするような学校教育支援員という形で保護者の学習ボランティアが年間を通していくれたら、先生方も大変助かると思います。学校のPTA役員や学級のPTA役員にはなれないけれど、自分ができる時に学習ボランティア活動をするということがPTA活動の一環となる等、PTA活動の参加の仕方も検討していく必要があるのではないかと。このような活動を通して、教師と保護者がつながり、子ども同士がつながっていくことで学力向上やよりよい学級づくりにもつながることが期待できます。小学校と中学校の違いはあるものの、学校側が地域の方、ボランティアの方にどう寄り添っていくのかがポイントになります。また、地域包括支援センターの活用を含め学校は今後どういう風にボランティアの皆さんに協力をお願いしていくのか、そこは管理職を中心に先生方が地域の方、保護者の方が快く学校に協力できるシステムを構築していく必要があります。

学校業務改善案⑫ 教師の負担軽減につながる取組 教育委員会から学校への調査依頼の見直し

国、県、市の似たようなアンケートを整理して欲しいという学校現場の強い要望があり、国に対する調整は直接的にできないが、県に対しては要望すると同時に、浦添市教育委員会においても必要最小限のアンケート調査依頼をしていきたいということでした。もちろん、アンケート調査をしたからには、その取りまとめ結果・考察については確実にフィードバックしていく必要があります。そうすることで、学校経営や各取組の改善につながると考えます。

また、年間を通した浦添市教育委員会からのアンケート調査の一覧表を作成し各学校に年度始めに配布すると、先生方は見直しを持って対応でき、負担感の軽減につながるのではないかと確認されました。

その他、各学校でも業務の工夫改善を！

「運動会・学習発表会の事前・当日準備の簡素化及び演技種目の短縮」や「学期末・年度末事務処理期間の設定：時間外勤務の縮減」、「各種委員会・部会の開催を精選したり合同で実施する等」などが提案されておりました。各学校で、市内小学校で、市内中学校でも工夫できることから取り組んでいただきたいと思います。各学校からの提案ありがとうございました。